

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 154-0011  
所在地 東京都世田谷区上馬2丁目25-4  
フレックス三軒茶屋2階

評価機関名 株式会社ミライ・シア

認証評価機関番号 機構 16 - 237  
電話番号 03-6805-4127  
代表者氏名 岡村 和彦

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	岡村 和彦	経営	H1301020
	②	平野 妃佐恵	福祉	H0801006
	③	佐藤 史歩	福祉	H2101021
	④			
	⑤			
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	認定こども園こっくる			
事業所連絡先	〒	141-0031		
	所在地	東京都品川区西五反田3丁目1番3号		
	TEL	03-5740-6971		
事業所代表者氏名	園長 高橋 由季 様			
契約日	2023 年 8 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 10 月 23 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 11 月 27 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 10 月 23 日			
自己評価結果報告日	2023 年 11 月 27 日			
訪問調査日	2023 年 12 月 4 日			
評価合議日	2023 年 12 月 4 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査はアンケート方式で行いました。アンケートは事業所の協力の下、案内用紙を保護者へ配布して頂き、WEBで回答して頂くか、アンケート用紙に記入して返信して頂きました。なお匿名性を確保するために、無記名としています。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 社員を喜ばし お客様を喜ばす</li><li>2) お客様第一主義</li><li>3) 環境整備の徹底</li><li>4) クレーム最優先</li><li>5) 人を喜ばす</li></ol>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの成長を一番に考え、沢山褒めて認める。全体指導を行いながらも一人一人に合わせた個別指導を行い、子どもの自信に繋げる。担当クラス以外にも積極的に入り、こっこの職員全員で子ども達の成長に関わっていく。職員間で困っていることを助け合える関係。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>私たちの仕事は未来を背負う子ども達の命＝人生を預かる尊い仕事であるということに誇りと喜びをもって日々の仕事にあたること。 自分たちの職場は自分たちがよくするのだという意識でお互いに助け合うこと。人を喜ばすことが社風・園風になる。</p>

調査対象	利用者家族45世帯を調査対象にアンケートを実施しました。なお、1世帯で複数の子どもが利用している場合は、年齢の低い方の子どもについて回答して頂きました。		
調査方法	利用者調査はアンケート方式で行いました。アンケートは事業所の協力の下、案内用紙を保護者へ配布して頂き、WEBで回答して頂くか、アンケート用紙に記入して返信して頂きました。なお匿名性を確保するために、無記名としています。		
利用者総数	53		
利用者家族総数(世帯)	45		
共通評価項目による調査対象者数	45		
共通評価項目による調査の有効回答者数	30		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	66.7		

利用者調査全体のコメント

利用者家族45世帯に対し、有効回答30件で67%の回答率となりました。総合的な感想では、「大変満足」が23名(77%)、「満足」が7名(23%)という結果になっています。事業所に対する総合的なコメントを見ると、「親に優しく、子供に温かく接していただけて安心して預けられる。昔ながらの純日本教育で非常に良い点もあるが、時代の変化に応じて英語クラス(国際交流)等も取り入れていただけるとなお有難い。」「園の生活をとても楽しんでいて、先生方を子どももとても信頼しています。日々の体操や礼儀礼節、たくさんのご指導を温かくしてくださるので、心身共に豊かに育ってくれているのを実感します。」「1番や勝ち負けといった結果にばかり拘りすぎず、頑張ることが大事と思えるように教えていただけるとありがたいです。」「他の園にはなかなかない充実の活動プログラムと明るい先生たちに囲まれ、毎日子ども自身が何より楽しみに登園しています。」「連絡帳が手書きなのが不便なので、可能な限りデジタル化して欲しい。」等の回答がありました。共通評価項目18のうち13項目が、90%以上の回答者が「はい」と回答しています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	28	2	0	0
この項目の回答者の93%が「はい」と回答しています。自由記述では「運動も読み書きも善悪も教えていただき、感謝しています。」「程よくしっかりと遊んで帰ってきますので、早寝早起きが出来ております。」「親子共満足してます。」という意見がありました。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	30	0	0	0
この項目の回答者の全員が「はい」と回答しています。自由記述では「家庭ではやらなければならないこと、家庭ではできないこと、どちらも教えてくれるので助かります。」「お友達が大好きだったり小さい子に優しくしたり、競争が好きだったり保育園のおかげで素敵なお子に成長すると感じます。」「体操やダンスを中心に身体をたくさん動かすこと、読み書きやピアノカとバランスよい活動がたくさんあり、子どもがとにかく楽しんで喜んで登園しています。」という意見がありました。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	29	1	0	0
この項目の回答者の97%が「はい」と回答しています。自由記述では「歌をうたったりダンスをしたり絵本を読んだり体操したり家でもやって見せてくれます。」「楽しい様で、『もっと遅くお迎えに来てよ!』と言われた事もある位、充実した楽しい時間を過ごしている様です。」という意見がありました。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	29	1	0	0
この項目の回答者の97%が「はい」と回答しています。自由記述では「珍しいメニューが献立にあたりします。季節の食材のメニューなど工夫してくださっていて感謝です。」「食わず嫌いだったり、嫌いで家では食べなかった物が、給食では食べれたり、親としては嬉しい事もありました。」「概ね満足していますが、乳糖不耐症(牛乳アレルギー)対応をしてもらえると嬉しいです。現在はアレルギーにすると全アレルギー除去食になってしまうので。」「食事やおやつに手作りのものをより増やしていただけたらいいな。」という意見がありました。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	22	7	1	0
この項目の回答者の73%が「はい」と回答しています。自由記述では「近くの公園など連れて行って下さいませ。」「発表会はとても立派ですごいと思っておりますが、運動会の内容が学習発表とややかぶるところがあり、個人競技に重点が置かれているように感じます。」「戸外遊びや行事などたくさんあるのですが、植物や動物などの自然と関わる機会は土地柄難しいと感じています。」という意見がありました。				
6. 保育時間の変更が急きょ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	29	0	0	1
この項目の回答者の全員が「はい」と回答しています。自由記述では「いつも柔軟にご対応頂き感謝しています。」「助かってます。」という意見がありました。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	27	3	0	0
この項目の回答者の90%が「はい」と回答しています。自由記述では「安全について子供が良く学んでる感じがします。」「園の前が道幅が狭い車が通る道路です。ガードレールなど何か対策してほしいです。」という意見がありました。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	27	3	0	0
この項目の回答者の90%が「はい」と回答しています。自由記述では「いつも行きたくなる居心地が良い場所です。」「保護者会は年一回でも良いと思う。」という意見がありました。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	28	2	0	0
この項目の回答者の93%が「はい」と回答しています。自由記述では「忙しくてもいつも相談にのってくれるので助かります。」「どんな相談でも良く相談出来る心強い先生方が沢山いるので安心して話ができます。」という意見がありました。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	29	1	0	0
この項目の回答者の97%が「はい」と回答しています。自由記述では「とても綺麗で快適な教室でありたいです。」「床が冷たく冷房をかけている時期は特に冷たく感じます。」という意見がありました。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	29	1	0	0
この項目の回答者の97%が「はい」と回答しています。自由記述では「先生方はいつも言葉から態度、服装全部丁寧です。」という意見がありました。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	24	5	0	1
この項目の回答者の83%が「はい」と回答しています。自由記述では「小さい事でも教えてください。」という意見がありました。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	22	3	1	4
この項目の回答者の85%が「はい」と回答しています。自由記述では「相談できます。」「先生方がいつも微妙な反応をします。」という意見がありました。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	28	2	0	0
この項目の回答者の93%が「はい」と回答しています。自由記述では「話さなくても良く気付いてくれます。」という意見がありました。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	25	2	0	3
この項目の回答者の93%が「はい」と回答しています。自由記述では「今のところ特に経験がありません。」「先生と子供も信頼関係がすごいなと思いました。」という意見がありました。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	28	2	0	0
この項目の回答者の93%が「はい」と回答しています。自由記述では「保護者交流会で説明して下さる園での生活について、先生方は準備も大変だと思いますがとても丁寧に分かりやすいです。」「理解しております。」「説明してほしいというリクエストや質問をしていないためか、あまり理解できていません。」という意見がありました。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	26	3	0	1
この項目の回答者の90%が「はい」と回答しています。自由記述では「以前子供が苦手な体操(跳び箱)を相談した際に、今後の方針やサポートの仕方など、親身にお話できて、とても有難かったです!」という意見がありました。				

18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	17	5	1	7
この項目の回答者の74%が「はい」と回答しています。自由記述では「そのような話題にはなっていません。」という意見がありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリー1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 <b>7/7</b>
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
カテゴリー1の講評		
<p>経営計画発表会で法人代表が目指す方向性について説明しています</p> <p>毎年1回、経営計画発表会を開き、法人代表から目指す方向性についての説明があります。コロナ禍前は関係会社を含む関係者が一堂に会していましたが、現在は映像を共有し、各園で視聴し確認しています。ここで発表される内容は経営計画書に反映されており、冊子として各園に備え置きされていて、職員がいつでも確認できるようになっています。園では3月末に全体で集まり、4月から認定こども園になるにあたっての方向性を確認しました。保護者に向けては保護者会で園長から伝え、また日々の送迎時の会話の中で大切にしている考えを伝えています。</p> <p>「安全120%」「初心」を今年度の最重要項目としています</p> <p>経営計画書に部下を持つすべての役職者に求められることが示され、発展計画書に組織図と各クラスの重点項目など1年間の方針がわかるようになっています。役職別の具体的な役割などを示す職務分担表は未作成で、昨年度、認証保育所として受審した第三者評価の改善点の1つとして挙げられていました。園長の今年1年間の方針として、「安全120%」「初心」の2つを最重要項目として発展計画書に明示し、職員へ伝えています。認定こども園として新たなスタートを切った背景から、「初心」というキーワードを選択しています。</p> <p>毎日の昼礼で園内の事案について話し合っています</p> <p>園内で合議すべき事案については階層別で検討し、法人に上げて検討、決定する流れとなっています。今年度は次年度の延長保育料の価格設定の見直しについて検討した事例がありました。園内では毎日昼礼を行い、必要事項を共有、確認しています。そして職員会議を年3回予定し、基本は土曜日午前中の行事が終わった午後実施することとしています。しかし、今年度は職員体制に余裕がなかったこともあり、年2回になる見通しでした。また、園長は毎月か隔月で全員で集まる機会を持った方がいいと考えていますが、勤務体制の問題でできていませんでした。</p>		

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-2の講評

保護者の意見を吸い上げられるよう、保護者会では事前に質問をしてから答えています

保護者会を年2回開催し、事前に質問を配り保護者からの要望や意見に対して答えられるように工夫しています。例えば、休日の過ごし方や習い事、お勧めのお出かけスポットなど様々な意見が寄せられるということです。園からは園内での子どもの様子などを報告し、共に子育てをしていく気持ちを醸成しています。職員からは日頃の会話の中からや、会議等で議題に挙げられたことについて検討しています。個別面談を実施した際にも意見を聞いています。特に今年度から認定こども園に移行するにあたり、昨年度は話し合いを重ねてきたということでした。

区内や法人内の園長会を通じて関連情報の収集をしています

地域の情報収集の1つとして、区内の園長会へ出席しています。認可、認可外、こども園などが合同で集まり、主に行政側からの情報提供があります。近隣に新規開園の保育園があるなどの情報も把握しています。昨今では区内で0歳児クラスの定員割れが起きているということで、園運営に影響がある事案として捉えています。法人内で開かれる園長会もあり、部門責任者から業界の新しい情報などが共有されています。経営状況については主に本部で管理しており、園の現場ではあまり触れる機会はないということです。

認定こども園へ移行後の中長期計画は未策定で、**予算編成はさらに工夫していく予定です**

昨年度までの認証保育所では5か年計画を策定していましたが、認定こども園に移行してからは未策定となっていました。今後の策定予定はあるということです。単年度の事業計画については、発展計画書があります。職員徹底事項として基本方針に沿った2つの最重要項目を定め、保育に関することから職員に求めること、クラスの重点事項が記載されています。予算は園長と法人の担当部署で相談しながら作成していますが、認定こども園に移行するにあたり**事前に情報収集して対応しており、今後は制度の理解を深めてさらに工夫していく方針です。**

カテゴリ-3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリ-1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

2/2

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリ-2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

5/5

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

職員手引書や経営計画書に職員に守って欲しいことなどが記載されています

職員に守ってもらうルールなどについては、全職員に配られる職員手引書に記載されています。また、経営計画書にも職員の行動規範となるような説明も書かれています。ただ、職員手引書は現状、あまり使えていないということでした。勤続年数が一定期間あるベテランも多いため、法人の考えをよく理解できている面もありますが、新しい職員を含め全員で共通認識を持てるよう、定期的に確認する機会を設けることもより浸透を図るための方法として考えられます。その他ではコンプライアンス研修を年2回、映像配信による方法で実施しています。

苦情解決制度は入園時に保護者へ説明していますが周知方法のさらなる工夫が望まれます

苦情解決制度については入園時に重要事項説明書に記載されていることを伝えています。園内の相談窓口のほか、外部の第三者委員が2名設置されています。ただし、この2名については保護者にあまり説明されておらず、利用者調査では制度のことを知っていると答えた保護者は約60%に留まっています。保護者からの苦情があった場合には、「クレーム最優先の責に基づく」と経営計画書に示されているのに則り、対応することとしています。虐待防止に向けては、朝の受け入れ時や午睡前などに子どもの身体的・精神的な異常がないかを確認しています。

ホームページを新しくして園の方針や生活の流れに加え、法人情報も確認できます

認定こども園として新たなスタートをしたのに伴い、ホームページも新しくしました。園の方針や概要、生活の流れがわかるほか、情報公開として法人の決算情報等も見ることができるようになっています。第三者評価をこれまで毎年受審しており、その結果をリンクを貼って確認することができるようになる予定です。ボランティア等の受け入れ体制は整えています。今年度は問い合わせは無かったということです。地域に向けての取り組みとして、未就園児教室を月1回開いています。マット運動を一緒にしたり、保護者向けに子育ておはなしサロンがあります。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>新園舎を使ってみて、実際に想定されるリスクを想定しています</p> <p>新園舎に移転したのに伴い、どのようなリスクがあるのかを話し合っています。活動が始まり約半年を経過したところで考えられるものとして、玄関前の道路への飛び出し、火災、大雨による水害を挙げています。玄関のすぐ前が道路になっていて車の交通量があることから、保護者には子どもと手をつないでから出るようお願いしています。以前の園舎ではIH調理器を使用していましたが、現在はガスコンロになったため火災のリスクを想定して火の取り扱いには慎重を期しています。大雨の際に前面道路が水で溢れてしまうため、土嚢の購入を検討しています。</p> <p>BCPは法人としてこれから策定する予定です</p> <p>災害対策の一環として、地震や火災を想定した避難訓練を毎月実施しています。避難の際には園舎外の非常階段と、中の階段の2つを使っています。また、子どもの安全を確保するために、救命救急(上級)講習を毎年1回全員が受講しています。大規模災害の発生時に備える事業継続計画(BCP)は現在未策定となっておりますが、今年度、法人内の園長研修で策定の指示が出たことから、これから動き出す予定となっております。職員の事故防止の意識を高める取り組みの1つとして、ヒヤリハットを昼礼で毎日出して職員間で共有しています。</p> <p>情報の取り扱いについて研修等で理解を深め、職員は遵守できていると回答しています</p> <p>個人情報保護規程等、園で取り扱う情報に関するルールについてコンプライアンス研修等で学ぶ機会があります。子どもに関する情報は、書類は事務室で保管し、データは法人内のサーバーで管理しています。メールアドレスを職員一人ひとりに設定し、サーバーにログインして作業できるようにしています。そして重要な情報には職位毎に閲覧制限を設定しています。これらの情報管理について、職員自己評価ではほぼ全員が理解し遵守していると回答しています。保護者には入園時に個人情報や書類の取り扱いについて書面で説明し、利用目的等の理解を得ています。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
<b>評価項目1</b> 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
<b>評価項目2</b> 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
<b>評価項目3</b> 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
<b>評価項目4</b> 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

3/3

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に  
取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-5の講評

採用ステップ3段階の中に「現場実習」が含まれている点は特徴といえます

採用活動は園単位で行っており、求人広告や紹介会社の利用、保育士養成校へ採用担当者と園長が訪問するなどしています。採用ステップは3段階で書類選考と園見学、次に現場実習を経て、最終は理事長と園長の面接で決定となります。現場実習が含まれている点は特徴といえ、入職後に相互で思い違いがないようにするための工夫した取り組みです。採用決定後には内定者研修を実施し、法人の理念や保育目標等の理解を深めてもらうようにし、実際に働きながら考え方をすり合わせていっています。今年度のクラス配置は安定を意図して持ち上がりが約半数です。

等級別に昇級基準が明確に示され、それに沿って研修の参加などを決定しています

職員の長期的な展望として等級別に求められる事項を示した評価表があり、これをキャリアパスといえることができます。各等級の昇級基準が示されており、これに沿って研修への参加を計画するなど、育成が図られます。研修はキャリアアップ研修を中心に主に外部のものを中心に参加しています。希望者が参加できるようにシフトを調整し、受講後は研修報告書を作成しています。個人別では年間目標を立てて、4半期ごとに振り返りをしています。新人等の指導担当者は特に配置しておらず、園長が主に対応しています。

退職者が出たことで現場に負担がかかっていますが、園長が環境改善に取り組んでいます

4月から認定こども園としてスタートするのに合わせて人員体制を整えていましたが、春先に相次いで退職者が出てしまったことで職員に負担がかかった状態となっていました。職員自己評価では人員不足に対する不満の声が散見されており、急務の課題となっています。また、年間休日日数を取得するために職員の勤務時間が長くなるなどの課題もあるということでした。このような中で園長は、職員の体調等に配慮しながら有給休暇の取得を促したり、シフトの希望を確認し、残っている職員の負担を少しでも軽減できるようにと努めています。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【目標の設定と取り組み】経験職員が多く、保育方針を理解している状況であったが、新しく入職した職員との理解度に差があり、全体の足並みがそろっていない状態でした。そのため、職員間のコミュニケーションを活発化して関係性の改善を図ることを目標としました。昼礼の時間を使い、経営計画書を基にテーマを設定し、それについてディスカッションすることで保育方針の理解を深めるようにしました。

【取り組みの検証】達成度合いを数値化することは難しいものの、一人ひとりの思いや考えを話す機会を持たせたことで関係性が改善されていきました。

【検証結果の反映】ディスカッションのテーマ設定や短時間でも話せる内容が明確にすることとして、今年度も関係性構築のための時間を設定していくこととしました。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li> <li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li> <li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li> </ul>
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li> <li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む)</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li> <li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li> <li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li> </ul>

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

特徴のある保育方針を掲げ、その落とし込みについては経営計画書にまとめて周知するなどしくみが出来上がっています。その中で育ててきた職員にとっては当たり前のことでも、新卒や途中で入職した人にとっては新しいもので、時間をかけて浸透させていく必要があると考えられます。しかし、当初はその差を埋めるための取り組みが十分でなく、お互いの理解度の差が関係性の悪化につながってしまう状態であったため、課題として取り上げて取り組んでいました。経営計画書の理解を深め、議論する場を設けたことでお互いを知ることになり、一定の成果につながっています。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【目標の設定と取り組み】4月に認定こども園として新たなスタートを切るにあたり、「初心」を大切に子ども園の目的や目標を全員で理解を深めていくことに取り組みました。発展計画書に最重要事項の2つを掲げて職員に伝え、日々実践につなげていきました。職員会議で振り返りの時間を設け、その進捗状況を把握していきました。

【取り組みの検証】振り返りの時間を作ることで職員が再認識することができ、またそれを自己完結することなくディスカッションの中でアウトプットすることでさらに深掘りすることにつながりました。

【検証結果の反映】秋以降も継続して実践、振り返りをしていながら、目標達成に向かっていくこととしています。

目標の設定と 取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</li><li>○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった</li><li>○ 具体的な目標が設定されていなかった</li></ul>
取り組みの検証	<ul style="list-style-type: none"><li>● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</li><li>○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>
検証結果の反映	<ul style="list-style-type: none"><li>● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</li><li>○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない</li><li>○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である</li></ul>

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

昨年度までは認証保育所として、今年度からは認定こども園として再スタートすることとなり、改めてその目的や目標を職員全体で共有、浸透させていくことに取り組んでいました。当初よりも集まる機会が少なくなりましたが、職員会議の中で振り返りの時間を作ったことで一人ひとりが考えるようになり、さらにディスカッションで深掘りすることにつながっています。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>入園希望者等が求める情報をホームページ等で伝えています</p> <p>入園を希望する保護者に対してホームページ、パンフレット、未就園児教室のチラシ等で園の情報を提供しています。近年の保護者はほぼWEBで保活をしているため、入園希望者が求める情報をホームページで提供出来るようにしています。ホームページには、保育理念、教育・保育方針、教育・保育目標、園の概要、デイリープログラム、園内見取り図等を、イラストや写真入りで掲載しています。パンフレットや未就園児教室のチラシは園見学の参加者、在園児の知人、在園児で年下の兄弟のいる家庭等に配布して、見学や保育イベントの参加を募っています。</p> <p>パンフレット等の情報ツールを保護者が入手しやすく配慮しています</p> <p>区が発行する「保育園のご案内」には、認定子ども園としての概要が掲載されています。また園のパンフレットは区の保育課の窓口や近隣の運動施設にも設置して、保育園を探す人々が入手しやすくしています。区の保育課には毎月在所児名簿を提出して、区のホームページから園の空き情報等がタイムリーに確認できるように連携しています。園では、見学时や電話問い合わせがあった際に空き情報等をその都度伝えています。また今後は保護者の利便性を考慮して園のSNSを作成し、園の様々な情報をタイムリーに入手出来るようにすることを検討しています。</p> <p>見学者には園が大切にしている事を伝え、共通認識を持てるよう働きかけています</p> <p>入園を希望する保護者からの問い合わせ・見学希望には、殆ど全ての職員が対応できるようにしています。園見学は、行事日と土曜日以外の平日の10:30～1日2組上限としつつ、都合が合わない保護者には別日程を設けて柔軟に対応しています。見学の際には園児が体操や毎月の歌などの諸活動を行う、普段のありのままの様子を見て貰います。見学者には必ず園の保育理念と、体操・音楽・学習などのカリキュラムを通じて、素直な心や諦めない気持ち、礼儀など、子どもの「生きる力」を育む取り組みを伝え、共通認識を持てるよう働きかけています。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p><b>重要事項を説明し、入園前の子どもの状況を確認しています</b></p> <p>入園内定者には、入園のしおり及び重要事項説明書を説明し、保育目標や年間行事予定、保育料、その他の重要事項について、同意を得て入園契約を交わしています。入園面接の際には、保護者に記入のうえ提出して貰う「入所申込書」「児童票」「食物確認表」等の内容をもとに面接を行い、入園前の子どもの生活リズムや好きな遊び、離乳食の段階、病歴、予防接種記録、子どもの性格と園への要望等を確認し、面接記録を作成して「児童票」ファイルに纏めています。嘱託医による「健康診断書」も提出して貰い、子どもの健康状態も把握しています。</p> <p><b>子ども・保護者双方の不安を和らげるように、慣れ保育を実施しています</b></p> <p>入園直後の環境変化による子どもの負担を軽減するため、保護者と相談の上、「慣らし保育」を実施しています。保育開始前には「児童票」「面接記録」「食物確認表」「健康診断書」等の情報を全職員が共有し、個々の子どもの状況を予め把握しています。園ではなるべく同じ職員が子どもに関わり続けられるように職員配置をすることで、子どもの愛着心を育み、安心して園の暮らしに慣れることが出来るようにしています。保護者とも日々まめに対話して子どもが慣れていく様子を伝え、保護者の不安な気持ちが軽減出来るように支援しています。</p> <p><b>卒園後も園といつまでも交流が続けられるようにしています</b></p> <p>卒園児の進学先の小学校には保育児童要録を提出し、公開授業等には職員が参加して、子どもの成長の様子を見守っています。当園は兄弟児が多く、卒園した年上の子がランドセル姿で良く園に立ち寄っています。卒園後にグループ園の学童保育を利用する子どもの様子を職員が見に行ったり、学童行事に参加して成長を見届けています。今年度は園の運動会に卒園児家庭を招いて一緒にリレーをしたり、去年まで使用していた旧園舎に集まって、旧交を深める機会を設けています。いつまでも園との交流が続けられるように努めています。</p>		

サブカテゴリ-3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 13/13

評価項目1  
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2  
全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3  
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4  
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

子どもの心身や生活の状況を、園で統一した書式に記録しています

子どもの心身や生活の状況は、「個別指導計画」「保育日誌」「毎月の発達状況記録」「健康ノート」等の園の統一書式に記載し、個別の情報を把握できるようにしています。また「連絡帳(3歳未満児)」は保護者との日々の連絡の記録と、保育の記録を兼ねた内容となっています。保護者との送迎時の対話をはじめ、個人面談、保護者交流会、行事アンケート等の様々な機会を通じて、ニーズの把握に努めています。子どもと保護者それぞれのニーズや課題を明確化し、日々の昼礼や会議で職員が情報共有を図り、統一した援助が出来るように努めています。

園独自のカリキュラムに「体操・学習・音楽・しつけ教育」を取り入れています

園の「全体的な計画」を踏まえて年間・月間・週・日計画を作成しています。0～2歳児と要配慮児には個別計画、3歳以降はクラス毎に月間計画を立てています。園は独自のカリキュラムである「体操・学習・しつけ・音楽」を日々取り入れています。0歳児は運動遊び・リトミック、1～2歳は柔軟体操・かけっこ・リトミック、3～5歳は読み・書き・計算・体操・ピアノ・道徳などを、クラス毎に年間計画を立てて実施しています。また園の暮らしを通じて、親孝行、利他の心、克己、素直・謙虚・感謝、等の「心の力」を養う取り組みも進めています。

クラスの垣根を越えて情報を共有し、日々より良い保育が行えるようにしています

職員は出勤時に職員室の「稼働表」「ホワイトボード」(全体周知事項や当日の職員配置等)や、各クラスの「昼礼ファイル」「保育日誌」「連絡帳」等の内容(子どもの特記事項、保護者と連携が必要な事項等)等を確認してから保育に当たります。職員がクラスの垣根を越えて子どもと関わられるように、毎日の「昼礼」では全園児の状況やヒヤリハットの共有等を行っています。施設会議では在園児の保育で悩むケースを取り上げ、職員間でアイデアを出し合ったり成功事例などを共有して、その後のより良い保育に活かせるようにしています。

サブカテゴリ-5

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1

子どものプライバシー保護を徹底している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当

評価項目2

サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリ-5の講評

子どもの羞恥心やプライバシーに細心の注意を払っています

保護者と年度毎に「掲載承諾書」を交わしています。外部から子どもの照会があった場合や、子どもの画像をホームページ等に用いる場合には、その都度保護者に確認をしています。個人情報の取り扱いに関しては、職員と守秘義務契約を交わしています。子どものプライバシーを守るため、子どもの前で他の子どものことを話さないことや、感染症等に罹った子どもの名前は公表しないこと等を徹底しています。オムツや着替えは外部から見えない場所で行ない、お漏らしをした際には他の子どもに気づかれぬように対応して、羞恥心の芽生えに配慮しています。

子どもの人権を尊重し、子どもの目線に立った保育の実践に取り組んでいます

園の方針を示す「こっころ発展計画書」では「子どもの人格を否定する言葉は使わない」「1日最低1回は子どもを褒める」「上手く出来なくても叱らない」「怒るときは人に迷惑をかけた時や、生命の危機に関わる時のみ」等を明示し、職員が子どもの立場に立った行動が出来るように園長が日々見守っています。昼礼では不適切保育の事例等を取り上げ、子どもにとって望ましい関わり方について話し合っています。また「社員自己評価表」や「コンプライアンステスト」で定期的に自己点検を行い、職員が自分の保育を振り返る機会を設けています。

虐待等に関する職員間の意識向上を図り、発見時の対応を定めています

区の園長会や外部研修等で子どもの人権や虐待対応等を学び、研修参加者からレポートの回覧や研修報告会などを行って、園全体で知識の向上を図っています。児童虐待に関するニュースや行政からの通達事例(園バス事故等)は昼礼時に情報共有し、虐待防止や早期発見について職員が理解を深められるように取り組んでいます。気になる家庭などのケースには、園長・主任・担任が主担当となって保護者に対応したり、個人面談等を行っています。虐待を発見した場合には、児童相談所、子ども家庭支援センター等へ通告する手筈を定めています。

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>業務全般に対する重要なマニュアルや規程類が整備されています</p> <p>「組織規程」「業務分掌規程」「職務権限規程」等の諸規程や「こっころマニュアル」を整備しています。社員の服務規律等を定めた「社員手引書」「職員手引書」は全職員に配布し、自学自習や内部研修で活用しています。「こっころマニュアル」では「調乳」「地震」「火災」「不審者対応」等の手順を纏めています。マニュアルは年度末や必要時に見直し、新たなものを作成しています。こっころのおしりは、園が今年度より認可保育園から認定こども園へと事業変更するに伴い、全職員に配布して、サービスの変更点が理解出来るようにしています。</p> <p>園が大切にしている事を全職員が理解し、実践出来るよう取り組んでいます</p> <p>会議や昼礼では「経営計画書」「手帳(フィロソフィ)」「社員手引書」「発展計画書」の主な内容(会社目標、経営理念、保育理念・目標等)を唱和して、全職員が暗唱出来るレベルとなっています。本部の担当者が定期監査を行って、コンプライアンスの履行や不測の事故の未然防止を担保出来るようにしています。毎年度、園の重要事項や目指すべき保育等を明記した「発展計画書」を作成し、その結果を踏まえて次年度の発展計画書を作成しています。定期的に園の運営の評価や見直しを図り、サービスの質の向上に取り組んでいます。</p> <p>保護者や職員の声を反映して、より良い園作りを進めています</p> <p>今年度は、従来のプロジェクトチーム制による業務改善を継続することが難しい側面(人員・環境変化等)があり、各クラス担任を中心に新しい園で着実にクラス運営が出来るように取り組んでいます。保護者との日々の対話、保護者会、個人面談、運営委員会、アンケート等、様々な機会を通じて保護者の意見・要望の把握に努めています。今年度は保護者から多数の要望があり、インフルエンザ明けの園児の登園届の提出を、他園の事例をもとに簡略化しています。職員・保護者の意見を取り入れながら、より良い園作りを進められるよう取り組んでいます。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている	評点(○○○○○○)
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している ○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ○非該当
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している ○非該当
評価項目1の講評	
<p>子どもが自ら考え行動できる主体性や自立心を育めるようにしています</p> <p>絵本をはじめ、個人別の靴やロッカー等は子どもの手の届く場所に設置し、自分の使う物の出し入れや片付けなどは自分で行うように促して、子どもの自立心を育てています。年長児には「日直」活動を取り入れ、全体朝礼や帰りの会での司会進行や班毎の掃除を行うことで、子どもの主体性や責任感を育てるようにしています。カリキュラムの学習で挙手して答えることや、毎月の歌の歌詞を職員が問いかけて、子どもが自由な感想や解釈を発表する機会を設けています。子どもが自ら考えて行動できる主体性や自立心を育む保育を進めています。</p> <p>異年齢交流を通じて多様性というものが理解できるようにしています</p> <p>各フロア毎に、全体朝礼や合同保育、かけっこや体操、誕生会や行事、歌のリハーサル等で異年齢交流を取り入れています。年上の子の「気を付け」の号令や「目を見てしっかり挨拶」する姿を年下の子が見てお手本としたり、行事前には互いのクラスの歌や体操を見せ合うことで、年上の子は年下の子を労わり、年下の子は年上の子に憧れて頑張る気持ちを持つ等、互いの存在が成長の良い刺激となる保育を進めています。文化や習慣の違いから、子どもの中でトラブルや疑問が生じた際には「人として」互いを尊重する大切さを教えています。</p> <p>就学に必要な生活習慣を身に付けられるように取り組んでいます</p> <p>子どもの進学先には保育所児童保育要録を送付し、個々の子どもの申し送りをしています。5歳児が小学校の集団での学習生活に自信を持って移れるように、就学に向けた取り組みをしています。時計の見方を覚えて時間を守る習慣を身につけて、小学校の時間割のある生活に馴染めるようにしています。帰りの会では自分の考えを言葉で発表する機会を設けています。集団性や規律は日々の体操を通じて養っています。また道徳やしつけ教育を通じて、何でも質問する癖を抜き、人の話をしっかり聞ける力を身につけられるように取り組んでいます。</p>	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当
評価項目2の講評		
<p>保護者に出来るだけ子どもの様子を伝えるよう工夫しています</p> <p>登園時は保護者と連絡帳を見ながら対話し、内容(前日の家庭での様子・熱・排便・食事・睡眠等)の記入漏れ箇所はその場で書いて貰います。降園時には連絡帳を渡し、その日の子どもが頑張っている事や出来るようになった事などノエピソードを口頭で伝えます。幼児の連絡帳も2週間に1回はコメントを書いて保護者に渡します。またクラス毎の日々の活動の様子を記した「伝達ボード」も掲示して、その時の様子もなるべく口頭で説明するようにしています。子どもの日々生き生きとした様子を出来るだけ伝え、保護者の安心に繋がるように工夫しています。</p> <p>子どもの意欲や可能性を尊重しながら基本的な生活習慣を身に付けています</p> <p>基本的な生活習慣は子どもの意欲を尊重し、出来る事な事は積極的にさせて身に付けられるようにしています。離乳食は保護者と確認しながら進めています。園では1歳児でも排せつの感覚をつかみ、トイレに関心を持つ様子を見ながら計画的に「パンツトレーニング表」を活用してトイレトレーニングをしています。園での様子を伝えることで、まだ早いと思っている保護者が可能性を見出し、家庭と連携しながらスムーズに進められています。子どもの意欲や可能性を尊重しながら、家庭と連携して基本的な生活習慣がスムーズに身に付くようにしています。</p> <p>3歳児から午睡をなくし、早寝早起きの望ましい生活リズムの定着を図っています</p> <p>1歳児までは月齢やその子のリズムに応じた午睡時間を設けつつ、子どもの体力・体調等に応じて柔軟に午睡出来るように対応しています。2歳からは家庭での睡眠時間や保護者の要望などに応じて、睡眠時間を減らすなど個別に対応しています。3歳からは早寝早起きの習慣作りのため午睡を無くしていますが、疲れた様子の子どもや、降園後に習い事に通う子ども等には必要な休息を取らせています。眠くない子は無理に寝かせず、製作、自由遊び、「読み・書き・計算」の学習、跳び箱の練習など、好きなことをして時間を過ごせるようにしています。</p>		
3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

園独自のカリキュラムで子どもが大切な力を身に付けられるようにしています

園独自のカリキュラム「読み・書き・計算・体操・音楽」の中でも、特に「体操」は園の運営会社が子どもの体育指導事業を行っているため充実しています。2～5歳児は毎日15分間走や、全身の力をつけるジャンプ・サーキット等を行っています。ブリッジ、壁逆立ち、逆立ち手踏み、逆立ち歩きの練習や、跳び箱、マット運動等もを行っています。体操で子どもの持つ可能性を最大限引き出し、子どもの「諦めない心」や「集中力・忍耐力」を育てています。やり抜いた時には職員が沢山褒め、達成感や感動する気持ちが子どもの自己肯定感を高めています。

幼少期から「人として大切な生き方」が身に付くように指導しています

子ども同士のトラブルの際には発達に応じて職員が仲介したり、意図的に見守りつつ、子ども達に「善悪の判断」「謝る力」「素直な心」等、「人として大切な生き方」が身に付くように指導しています。また挨拶や返事は「人としての基本」として、しっかりと身に付くように指導しています。朝礼では「相手より先に挨拶」「呼ばれたら大きな声で相手を見て『ハイ』と返事する」等を子ども達が唱和します。また職員やお客様とは丁寧な言葉で話すことや、大人の話に割り込まないこと等、大切なマナーを身につけることが出来るように指導しています。

子どもの表現力や感性を生き生きと発揮できるようにしています

園は「1日本読み目標2冊」を掲げ、絵本を通じて人として大切にしたい言葉を伝えるようにしています。子どもの年齢や発達に応じて、絵本やカード遊びの内容を段階別に色分けし、子どもが色で自分に合った本を手にとって読めるようにしています。毎日の帰りの会では子どもが1日の振り返り等を発表する場を設け、自分の思いを言葉で表現する自信を育てるようにしています。またキッズダンスや歌・日記・描画・散歩で拾った自然物を活かした製作などを楽しみながら、子どもが心も体も生き生きと使った表現活動を楽しめるようにしています。

4 評価項目4

日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当

評価項目4の講評

子どもが意欲的に参加できる行事作りを工夫しています

端午の節句・七夕・クリスマス等、年間多数の行事を行っています。行事の際は絵本、歌、クイズ等で子どもの関心を楽しく盛り立てて導入しています。年長児のお楽しみ会では、近隣の商店で買い物体験してから皆でカレー作りをしたり、電車で遠い公園までピクニックに行きました。夏祭りには盆踊りや的あてゲーム、団扇作り等、甚平姿でフロア巡りをしながら楽しみました。学習発表会では子どもの意見を取り入れながら使う曲や見せ場を決め、体操・音楽・学習の成果を発表します。子どもが「やってみたい」と思う、楽しい行事作りを工夫しています。

運動発表会では皆で一丸となってやり遂げた感動や自信を味わえるようにしています

運動発表会では子どもが日頃の体操で出来るようになった成果を保護者の前で披露します。園は年長児までに全員ブリッジ・跳び箱・逆立ちが出来ることを目標としています。子ども達は日々懸命に練習し、出来ない子を応援したりコツを教えながら、「全員が出来るようになる」目標に取り組んでいます。職員は子どもの可能性を信じて指導を続けており、今年は普段の練習で跳び箱10段が自然に跳べる子どもが現れ、保護者から大変驚かれたというエピソードがありました。目標に向け一丸となり、やり遂げた時の感動や自信が得られる運動発表会を行っています。

「我が家の思い出」と喜ばれるような行事作りが進んでいます

年間行事予定表を配布し、保護者参加型の行事は土・日に設定して多くの保護者が参加しやすくしています。行事の前には改めて詳細を案内し、行事への積極的な参加を募っています。行事後にはアンケートを実施して、次回のより良い行事運営に活かすようにしています。今年度は運動発表会の際に、保護者ときょうだい児に参加を募り、保護者対職員のリレーや、きょうだい児参加でのかけっこ等の競技を取り入れたところ、保護者から楽しみにしているとの声が寄せられ、当日は大変な盛り上がりでした。親子の楽しい思い出となる行事作りが進んでいます。

5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

在園時間の異なる子どもも仲良く遊べるよう、全園児が顔馴染みの関係を作っています

園の基本開園時間は7:30分～19:30(延長保育時間:18:30～19:30)で、1号認定(幼稚園枠:10:00～14:00)、2号認定(3～5歳:7:30～19:30)、3号認定(0～2歳:7:30～19:30)の子ども達を預かっています。現在延長保育を利用する子どもは、スポット利用を含め1日あたり3～4名(2～4歳児が中心)となっています。園では縦割り保育は設定していませんが、きょうだい児も多く、毎朝の合同朝礼や合同行事等で全園児が顔馴染みとなれる関係作りを進めて、共に仲良く遊べるようにしています。

保育時間の長い子どもがゆったりと安心して過ごせるようにしています

延長保育を利用している子どもはスポット利用を含め、現在1日あたり3～4名(2～4歳児が中心)です。徐々に子どもの人数が減っていくため、園に残る子どもが寂しさを感じないように、適宜絵本の読み聞かせをしたり、個々にスキンシップを取るなどのコミュニケーションを図っています。また預かり時間の長さや子どもの体力に応じて、適宜休息したり、補食・夕食(希望制)提供や水分補給などをして、体力的に無理なく過ごせるようにしています。保育時間の長い子どもが家庭的な環境でゆったりと過ごせるようにしています。

延長保育時間ならではの楽しい過ごし方が出来るようにしています

遅番職員に延長保育を利用する子どもの様子等の引継ぎを行い、その子の好きな遊びや集中して遊べるものなどを用意するようにしています。延長保育は1・2歳の保育室を使うため、子どもがフロアを移動して、いつもと違う部屋にある色々な玩具や絵本を使えるので、楽しみにしているそうです。個々の子どもが好きな玩具でじっくり遊べるように環境設定したり、絵描きや塗り絵などの机上遊びをしています。なかには個別に縄跳び練習や、職員のお手伝いを楽しむ子もいます。延長時間ならではの、楽しい過ごし方が出来るように工夫しています。

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもが食事に集中し、マナーを身に付けられるように指導しています

クラス毎に子どもの成長に合ったテーブルや椅子を配置し、落ち着いて食事できる環境を整えています。好き嫌いのある子は保護者と相談しながら無理強いにならぬよう促しています。年長児は全員が揃って、当番の号令で姿勢を正し「両親への感謝と、命の恵みを頂く」感謝の言葉を斉唱してから食事を開始します。食事開始後の5分間は手を止めず、集中して食べる「もぐもぐタイム」を設けて、子どもにしっかり食事するよう促しています。職員は寄り添いながら、食事姿勢、食べ方、茶碗やスプーン・箸の持ち方等のマナーを徐々に教えています。

全ての子どもに目で見てもおいしい、安全な食事を提供しています

園の厨房で、日々手作りの給食を提供しています。給食は一人ひとりの子どもの味覚や咀嚼の発達に合わせた食形態で、安心・安全な旬の素材や出汁の風味を活かした薄味の調理を心掛けています。毎月目で見て美味しい行事の特別メニューでのお祝いも取り入れて、楽しい食育の一環としています。食物アレルギーのある0・1歳児は座る位置と椅子を個別に設け、2歳児からは担任がアレルギー児の傍で誤食がないよう見守っています。配膳の際にも食器を分けて記名したラップをかけ、調理員と園長がダブルチェックをして提供しています。

子どもに伝統食や食にまつわるマナー等を伝えています

今年度は園舎の移転もあって食育野菜の栽培などは行えませんでした。新しく導入した電子黒板を活用して、行事の由来を伝える動画で学びに繋がる活動をして、行事食を楽しく食べる機会を設けています。各クラスの食育計画に沿って生活習慣を身につける活動を実施しています。給食時には旬の食材の説明をしたり、スプーンや箸の使い方、食事のマナー、和食・洋食別の配膳の仕方などを教えています。5歳児はお泊り保育で皆でカレーを作って美味しく食べています。来年度は栄養士と協働して、さらなる食育を検討したいと園は考えています。

7	<p>評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p><b>病気やケガ、事故などの危険から身を守ることの大切さを指導しています</b></p> <p>日々の声掛けで手洗いやうがいの習慣身につけながら、感染症予防の大切さを教えています。看護師による歯磨き指導も行き、口腔内の健康の大切さを伝えています。散歩の道中には毎回交通ルールを教えています。遊びや活動の前には約束やルールを守るように指導しています。子どもが危険性のある行動をした場合はその結果を考えさせ、注意喚起をしています。毎月行う避難訓練は実施後、次の訓練時には前回の反省点を改善して行っています。2歳児以上には動画を見て、学ぶ機会も設けています。子どもがあらゆる危険を回避出来るように指導しています。</p> <p><b>保護者や医療機関と連携しながら子どもの健康を守っています</b></p> <p>嘱託医による年2回の検診を実施し、検診日に体調や様子の気になる子どもがいればその場でアドバイスを貰い、子どもの健康を守るようにしています。登園後の子どもの微熱は経過観察して柔軟に対応していますが、高熱が続く場合は保護者に相談のうえ取りを依頼すると共に、嘱託医から助言を貰って外来受診させるなど連携しています。投薬は医師の処方薬のみ対応し、「与薬依頼書」を用いて、薬の受け取り・投薬時には対応した職員が署名します。投薬は昼礼で報告して室内のホワイトボードに書き、職員間で共有して投薬忘れを防いでいます。</p> <p><b>感染症や乳幼児突然死症候群などの情報を提供し、予防に努めています</b></p> <p>行政から配布される保健衛生情報のポスター等を掲示し、保護者向け一斉メールで感染症等のお知らせをしています。園児に感染症が発症した場合は、症状・潜伏期間等を保護者の目に留まる園の出入口に掲示して口頭でも伝え、似た症状が出た時には早期の受診を依頼しています。乳幼児突然死症候群の予防として、年齢ごとに定めた間隔で検温と午睡チェックを行い、寝姿、寝具、呼吸状態等を一人ひとり観察し、記録しています。入園面談時には保護者にうつぶせ寝のリスクを伝え、家庭でもあおむけ寝をするように協力を依頼しています。</p>		
8	<p>評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>	
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

保護者に対する柔軟な支援や対応が大変喜ばれています

保護者とは日々の対話を通じていつでも気軽に相談して貰うように伝え、随時育児相談を行って、安心して子育てができるよう支援しています。保護者の勤務状況や健康状態等の変化は職員間で共有し、必要な支援を行うようにしています。保護者の負担軽減のために、延長保育時の補食や夕食提供にも柔軟に対応しています。利用者調査でもこの項目は回答者の約97%が「はい」との結果で、「とても助かる」「いつも柔軟にご対応いただき、大変助かっている」等、高い評価です。園が保護者に寄り添った柔軟な対応をしていることが窺えます。

保護者と園の親睦が深められるような取り組みを進めています

毎月の園だよりには担任からのコメントを載せ、保護者との親睦が深まるようにしています。運動発表会等の保護者参加型行事では、我が子と友達の関わりを通じて自然と子育ての輪が広がるようにしています。今年度の保護者交流会ではフリートークの時間を設け、「家の中の保育の悩み」など事前アンケートで募ったテーマに沿って、保護者同士が小グループで和気藹々と話したり、情報交換が弾み、子育て仲間としての連帯感が育まれたようです。園と保護者が親睦や繋がりを深められるように、様々な取り組みをしています。

保護者に園の様子を積極的に伝え、共通認識を得られるようにしています

毎月の園だよりではクラスの目標や子どもの姿、家庭でも取り入れて欲しい生活習慣等を伝えています。日々の連絡帳や送迎時の対話、個人面談を通じて、子どもの発達や園の大切な取り組みへの共通認識を得られるように取り組んでいます。今年度の保育参観は2時間半の時間を設けて、じっくりと園の活動や普段ありのままの保育を見て貰えるようにしたところ、ほぼ全家庭が参加しています。コロナ禍も過ぎたため、保護者参加行事の人数制限は撤廃し、祖父母も参加して大変喜ばれています。保護者からの信頼が得られるように様々な取り組みをしています。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

身近な地域を活用し、子どもの体験や生活の幅を広げられるようにしています

日々の散歩の際には地域住民に積極的に挨拶し、顔馴染みの関係作りを進めています。散歩では様々な公園や広場、近隣のポルダリングやボール遊びが出来る運動施設の無料開放日を活用しています。運動発表会は地域の小学校の体育館・学習発表会は地域の音楽ホールを借りて開催します。年長児はお泊り会でカレーを作るので、地元のスーパーで買い物体験をしています。また翌日のピクニックには子どもの大好きな電車に乗って出かかっています。子どもに身近な地域資源を活用して、子どもたちの体験や生活の幅が広げられるよう取り組んでいます。

子どもが多様な人々と交流し、社会性を育めるよう取り組んでいます

今年の勤労感謝の日は、園の給食食材の配達業者や近隣の運動施設の職員あてに子ども達を書いた手紙を渡しに行き、日頃の感謝を伝えています。その近隣の運動施設が会場となった警察署・消防署の安全教室に参加して、署員や地域の高齢者と交流しています。毎月本部の幼児研究会から体操・ダンス・道徳の講師が来園し、子ども達のモチベーションとなっています。今年度は学童保育を含む系列4園で交流会を開き、園児がリレーやレクリエーションで集団経験を経て人見知りの克服に繋げるなど、子ども達の社会性を育めるよう取り組んでいます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	今年度より未就園児教室を開始し、地域に溶け込んだ園作りを進めています	
内容①	今年度より園は認証保育園から認定こども園へと事業変更し、園舎も隣駅に移転しています。新たな地域に園の存在を知って貰えるように、年間予定を立てて、毎月「未就園児教室」を開催しています。0～2歳の未就園児をもつ地域の子育て家庭を対象に、園の朝の会の体験参加、鉄棒・跳び箱・マット等の体操器具を使った運動、ベビーダンス、子育てお話サロン等を行っています。未就園児教室を通じて、地域の子育て家庭が保育園の暮らしというものを知り、また参加者同士の子育ての輪が広がるような取り組みで、地域に溶け込んだ園作りを進めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-4	日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している
タイトル②	保護者に子どもの成長の姿を見て貰い、安心や信頼が高まるように取り組んでいます	
内容②	コロナ禍も過ぎたため、家族が園の行事に人数制限なく参加できるようにしています。運動発表会は例年子どもが日頃の体操の成果を保護者の前で披露する行事ですが、今年度は保護者やきょうだい児参加型の競技を取り入れたところ、家族の思い出の行事になったと大変喜ばれています。また保育参観は時間を2時間半設けて、ゆっくりと普段ありのままの保育や活動を見て貰えるようにしたところ、ほぼ全家庭が参加しています。子ども達の姿を出来るだけ保護者に見てもらうことで、園に取り組みに対する保護者の安心や信頼が高まるように取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	子どもが集団での経験を積み、社会性を育めるよう取り組んでいます	
内容③	園は殆ど全ての園児が卒園まで同じ顔ぶれで過ごし、加えて近年のコロナ禍で社会との繋がりが薄れていたこともあってか、園児が他の集団の子どもに人見知りをしたり、自分から話しかけられないことを、園は課題と感じていました。そのため今年度は系列の学童保育を含む4園で合同交流会を開き、子ども達がリレーやレクリエーションで集団活動を楽しみ経験して人見知りを克服し、コミュニケーションの楽しさを味わえるようにしました。子どもが園の外の世界を広げ、進学しても自分から積極的に話しかけられる社会性を育めるよう取り組んでいます。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの可能性を最大限に引き出す独自のプログラムや、人間としての基本・善悪の区別などの道徳教育が、保護者に大変喜ばれています
	内容	当園は独自のカリキュラムとして、日々の「読み・書き・計算・音楽・体操」を取り入れることで、子どもの個々の可能性を引き出し、伸ばし、育てる保育を実践しています。また日々職員から「克己、素直、謙虚、感謝」などの心や「人としての基本」である挨拶やマナー、「善悪の区別」等の道徳心を幼少期から指導しています。利用者調査の総合満足度は100%と大変高い評価で、自由記述では「体操や礼儀など温かい指導で、心身共に豊かに育っている」「特に体操は子どもの能力を存分に引き出してきて感謝している」等、保護者に大変喜ばれています。
2	タイトル	子どもの目線に立って充実させた園舎の設備を活かして、子どもの心身を健やかに育てています
	内容	今年度より新園舎となり、設計段階から園の暮らしを充実させられる設備を検討して導入しています。保育室には電子黒板を導入し、大画面でダンス動画を見ながら子ども達が広々と踊れるようにしています。また天井から吊るせる多種多様なアスレチック遊具(ブランコ・ロープ・梯子等)を導入し、子どもの遊びのバリエーションを広げています。1階のバルコニーでは体を使った遊びや夏のプール活動等が出来るようにしています。子どもの目線に立って作った充実した園舎で、子どもがのびのびと遊びながら、心身が健やかに育まれる環境を工夫しています。
3	タイトル	新園舎での活動に潜むリスクを洗い出すために毎日昼礼でヒヤリハット報告をするなど「安全120%」を意識した取り組みが行われています
	内容	新園舎でのスタートとなった今年度、最重要項目の1つとして「安全120%」を掲げています。実際に保育をする中でどのようなリスクが潜んでいるか、園全体で把握、共有していくために毎日昼礼でヒヤリハットを報告することになっています。これまでに把握できたリスクとして、玄関から道路への飛び出し、ガスコンロ使用になったため火災、大雨の際に道路が水で溢れる、などを挙げています。避難訓練は毎月1回実施し、対応力の向上にも努めています。このようにして、「安全120%」を意識した取り組みが複数実践できていることが確認できました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	新たに認定こども園としてスタートしたものの、春の時点で退職者が続いてしまい、職員体制の整備が課題となっています
	内容	昨年度まで認証保育所で取り組んでいた内容をベースに、新たに認定こども園として4月に開園しました。職員体制を整備してのスタートでしたが、春の段階で続けて退職者が出てしまったことで、当初の計画通りの活動が十分にできないこととなってしまいました。職員自己評価では、この職員不足に対して改善を望む意見が散見されています。このような中でも園長を中心に職員が協力し合い、体調等に考慮しながら計画的に休暇をとれるようにするなど工夫して乗り切ってきました。次年度に向けての体制整備が課題といえます。
2	タイトル	計画的な運営をしていくためにも中長期計画の策定と、新制度に合わせた予算編成のさらなる工夫が望まれます
	内容	認証保育所時代には作られていた中長期計画(5か年計画)が、認定こども園になってから新たに作られていませんでした。また、サービス種類が変わったことで補助金等も変わり、事前に情報収集して対応していますが、まだ工夫の余地がある状態です。新たにスタートした園として、中長期の目標や制度を活用した運営方法など、検討すべき事項が残っているといえます。現状の課題を抽出しつつ、長期的視点に立った課題も見出していき、より計画的な運営をしていくための中長期計画の策定と予算編成が望まれます。
3	タイトル	キャリアパスを基にした育成方針や研修の受講計画を立て、また職員面談を適宜実施していき、計画的な人材育成が図られることが望まれます
	内容	法人で定められたキャリアパスでは昇級基準が明確に示され、キャリアアップ研修などは本人の希望に合わせて受講しています。このように育成のための「軸」はしっかりと明示されていますが、個々人の育成を検討する際にキャリアパスはあまり意識せずに進められているということでした。せっかく基準が明示されていますので、それを基にした育成方針の検討や研修の受講計画に反映していくことが望ましいと考えられます。また、職員面談があまりできていないということでしたので、これについても計画的に実施できるような工夫が望まれます。